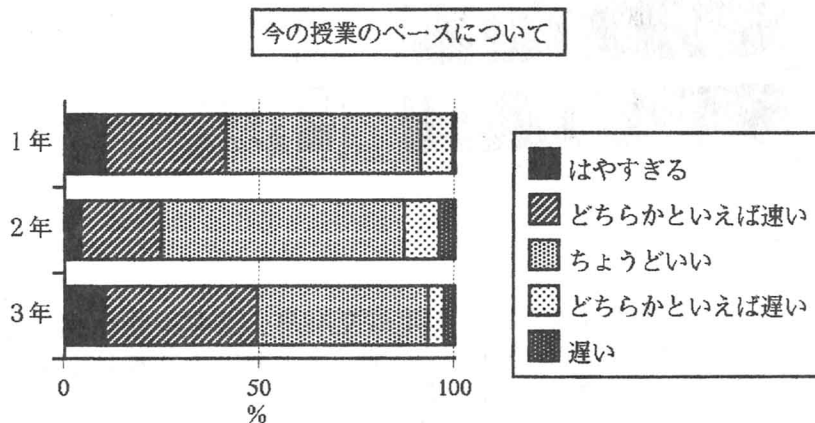
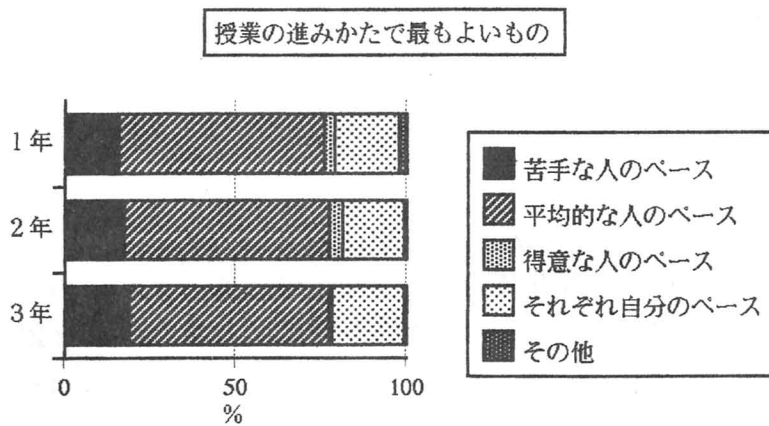


「もっと楽しくおもしろく」と答えた生徒が1年生で44%、2年生で35%、3年生で51%である。これは先に述べたとおり、英語を好きになる大きな理由のひとつであるので、課題の与え方、活動の組み方を含めて、教師は指導の工夫をさらにしていかなければならないであろう。



「はやすぎる」と答えた生徒は1年生で10%、2年生4%、3年生で10%であり、「どちらかという速い」と答えた生徒は1年生で31%、2年生で21%、3年生で39%である。また「ちょうどいい」と答えた生徒は1年生で50%、2年生で62%、3年生で44%である。



「苦手な人のペース」と答えた生徒は1年生で16%、2年生17%、3年生で19%であり、「平均的な人のペース」と答えた生徒は1年生で60%、2年生で60%、3年生で58%である。また「それぞれ自分のペース」と答えた生徒は1年生で19%、2年生で18%、3年生で21%である。平均的な人のペースが支持される理由としては、得意な人のペースだとわからなくなる生徒が多くなるし、苦手な人のペースだと進度が遅れてしまうというものがほとんどであった。

2 英語における学習行動

英語学習に対する取り組みは非常に消極的であり、その傾向が2年生で強い。ただまじめがうかがえる部分もあり、この部分からのアプローチも学習行動を喚起する一方策と考えられる。